

大阪・楠葉野田西遺跡

実施した。面積は約二六〇²mであった。

所在地 大阪府枚方市楠葉一丁目

調査期間 第五三次調査 一九九六年（平8）七月～八月

発掘機関 (財)枚方市文化財研究調査会

調査担当者 谷川博史・西村健司

遺跡の種類 集落跡

遺跡の年代 古墳時代～室町時代後期

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

楠葉野田西遺跡は、枚方市の北東部、大阪府と京都府の府境付近の淀川左岸に位置し、淀川によって形成された冲積平野（海拔約八

m）に立地する。

周辺の遺跡には、旧石器時代から中世までに及ぶ楠葉東遺跡や、四天王寺創建時の瓦を焼いた楠葉平野山瓦窯跡などがある。

今回の調査は、マンション建設に先立ち、(財)枚方市文化財研究調査会が発掘を



（京都西南部）

調査の結果、古墳時代から室町時代の掘立柱建物、井戸などのほか、堀と思われる遺構を検出し、堀の中から大量の木製品に混じり木簡三点が出土した。

堀は東西方向に走り、幅約一・四m、深さ約一・二mで、断面は逆台形を呈し、調査区の中央付近でクランク状に曲がる。出土した木製品には、下駄・箸・杓子・杓・編具・扇・漆器椀・鋤状木製品・陽物形・毬・毬杖・建築部材などがある。そのほかに草鞋又は草履、網代編みの笠、鉄製包丁、瓦質風炉、摺鉢、瓦、青磁、土師質小皿が多量に出土している。

8 木簡の釈文・内容

(1) 「○（梵字）奉転読大般若經一部六百卷祈願成就」

明應八年
息災延命祈也
〔月カ日カ〕

688×75×6 011

(2) 「×（梵字）奉看讀大般若經六百卷祈禱也」

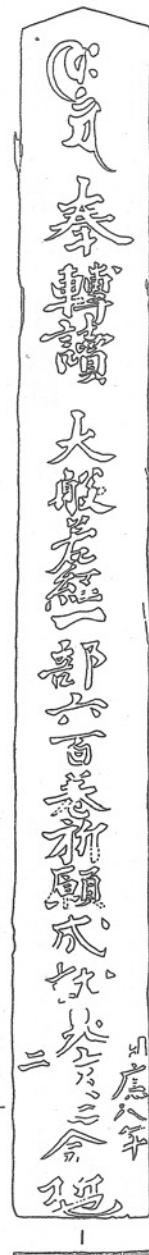
明應八年
正月十七日

365×68×4 011

(3) 「（梵字）奉勤修不動明王護摩供一七ヶ日所」

明應八年
十二月十八日

240×38×3 011



(1)

(1)は「大般若經」の転読札である。明応八年（一四九九）二月の紀年が入り、大般若經一部六百卷を転読し、祈願成就と息災延命を祈った札である。長さが六八・八cmと非常に大きく、札の左上に直径一mmの穴が穿たれている。

(2)は大般若經六百卷を看読した札である。明応三年（または五年）正月一七日の紀年が入る。「看読」という言葉は現在あまり使われていないが、曹洞宗では現在も「看読」が行なわれており、その場合の「看読」とは「真読」と同じ意味であるという。

(3)は護摩供養を七日間行なつたという護摩札である。

木簡の整理は下村節子（枚方市文化財研究調査会）が主になつて行ない、釈読は奈良国立文化財研究所の館野和己氏、向日市教育委員会の清水みき氏、財向日市埋蔵文化財センターの山中章氏のご教示を得た。

（谷川博史・西村健司）



(3)



(2)